

# 地震防災に関するフォーラム

## — 地域・学校で防災教育を考えよう —

- ◆開催日 平成19年11月10日(土)
- ◆会場 千葉市生涯学習センター メイン会場2階ホール
- ◆主催 文部科学省、千葉県、千葉県教育委員会
- ◆後援 内閣府(防災担当)

9:30	開 場	
10:00～10:15	開会挨拶	
10:15～11:45	基調講演「減災と防災教育」	5
	講師：吉川肇子 慶應義塾大学商学部准教授	
11:45～12:45	休 憩	
12:45～15:00	分科会	
	<b>分科会1</b> 「阪神・淡路大震災の被災体験などを通して防災教育を考える」	11
	講師：震災の語り部(かたりべ)：浅堀 裕 兵庫県立鈴蘭台高等学校教諭	13
	講師：講演・進行：諏訪清二 兵庫県立舞子高等学校環境防災科教諭	17
	会場：2階 ホール(定員約300名)	
	<b>分科会2</b> 「ゲームで楽しく防災教育を考える」	21
	講師：進行：防災ゲーム研究会	
	細川顕司 (財)市民防災研究所事務局長(兼)調査研究部長	23
	首藤由紀 (株)社会安全研究所副所長	
	会場：3階 研修室2、研修室3(定員約60名)	
	<b>分科会3</b> 「防災教育の実践例と防災教育モデル事業中間報告」	25
	発表：中野直美 我孫子市立布佐南小学校教諭	27
	杉本林太郎 市川市立大野小学校教諭	
	防災教育モデル事業の代表発表者	33
	進行：中野直美 我孫子市立布佐南小学校教諭	
	会場：3階 大研修室(定員約80名)	
15:00～15:15	休 憩	
15:15～16:30	全体会議	
	コーディネーター：吉川肇子 慶應義塾大学商学部准教授	
	パネリスト：諏訪清二(兵庫県立舞子高等学校環境防災科教諭 分科会1進行者)	
	細川顕司((財)市民防災研究所事務局長(兼)調査研究部長 分科会2進行者)	
	中野直美(我孫子市立布佐南小学校教諭 分科会3進行者)	
	渡邊 淳(文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長)	
	吉田雅一(千葉県総務部消防地震防災課長)	
	参加者との質疑応答	
	文部科学省 資料	39
16:30	閉 会	

## 《 講師紹介 》

### 吉川 肇子 (きっかわ としこ)

現職 慶應義塾大学商学部准教授

学歴 京都大学文学部哲学科 (心理学専攻) 1982年卒業

早稲田大学大学院文学研究科修士課程心理学専攻

1985年 修士号取得

京都大学大学院文学研究科博士後期課程心理学専攻

1988年 単位取得退学

1999年 博士 (文学)

専門領域 組織心理学, 社会心理学

研究紹介 エキボケーション 組織開発

主要著作・論文

1. 「経済と経営のための統計学」(共)有斐閣, 2005年
2. 「食品安全性の経済評価—表明選好法による接近—」(分担執筆)農林統計協会, 2004年
3. 「現代社会心理学」(分担執筆)慶應義塾大学出版会, 2004年
4. 「組織調査ガイドブック」(分担執筆)有斐閣, 2000年〔論文〕
5. 「交渉ゲームとしての『SNG(説得納得ゲーム):販売編』の開発」(共)『シミュレーション&ゲーミング』, 2006年
6. 「生産情報公表牛肉およびBSE検査済み外国産牛肉の消費者評価選択実験による接近」(共)『農業情報研究』, 2006年
7. 「囚人のジレンマゲームにおける意思決定と焦点化」(共)『理論心理学研究』2005年
8. 「食品安全性に関する態度が牛肉選択行動に与える影響—社会心理的要因を考慮した選択実験」(共)『農業経営研究』2004年
9. Crossroad: Kobe: A training tool for disaster preparedness and response. (共) In W. C. Kriz & T. Eberle (Eds.), Bridging the gap: Transforming knowledge into action through gaming and simulation. Munich, Germany: SAGSAGA, 2004年
10. 「「決め方」と合意形成:社会的ジレンマにおける利己的動機の抑制にむけて」(共)『土木学会論文集』2001年

所属学会・団体

産業・組織心理学会, 日本心理学会, シミュレーションゲーミング学会, 日本リスク研究学会, American Psychological Association



### 浅 堀 裕 (あさほり ひろし)

現職 兵庫県立鈴蘭台高等学校教諭

生年月日 1962年2月生

職歴 平成2年~平成13年 兵庫県立御影高等学校 保健体育科 教諭

平成13年4月より 兵庫県立鈴蘭台高等学校 保健体育科 教諭

経歴 (防災に関する)

- ・1995年1月17日阪神・淡路大震災時、兵庫県立御影高校避難所の責任者として同年8月20日の閉所までその職務につく。
- ・1995年兵庫県教育委員会が設置した防災検討委員会の協力校の協力者となる。
- ・1996年兵庫県教育委員会が作成した「明日に生きる」防災副読本の作成委員となる。
- ・1997年文部省体育局学校健康教育課が作成した「防災について考えよう」パンフレットの調査研究協力者となる。
- ・1997年、1998年兵庫県防災教育推進指導員上級コース修了
- ・1997年兵庫県防災教育推進委員会委員
- ・1998年兵庫県防災教育推進連絡会議委員
- ・1999年兵庫県防災教育推進連絡会議委員
- ・2000年震災・学校支援チームEARTH運営委員 避難所班 班長
- ・2000年文部科学省体育局「学校安全に関する調査研究」委員

## 諏訪 清二 (すわ せいじ)

---

現職 兵庫県立舞子高等学校 教諭 環境防災科 科長

### 学歴・職歴

- 1982年3月 岡山大学教育学部卒
- 1982年4月 兵庫県立神戸商業高等学校 英語科 教諭
- 1994年4月 兵庫県立舞子高等学校 英語科 教諭
- 2002年4月 兵庫県立舞子高等学校に環境防災科設置 環境防災科長

専門分野 英語化教科教育法 防災教育全般

### 主な活動 (研究テーマ)

防災教育のコンテンツと活動の確立、防災教育をどう広めるか、防災教育を通じた国際交流、防災活動を通じた若者の活躍の場の創造とネットワークづくり

## 細川 顕司 (ほそかわ けんじ)

---

現職 (財)市民防災研究所事務局長 (兼) 調査研究部長

### 学歴・職歴

- 1967年 國學院大學文学部文学科卒業
- 同年 東京消防庁入庁 (機関誌『東京消防』編集長、池袋都民防災教育センター長等を歴任)
- 2004年 東京消防庁定年退職
- 同年 財団法人市民防災研究所入所

### 専門分野

市民の地震・火災対策、防災教育、防災ゲーム研究

### 主な活動 (研究テーマ)

防災講演・防災ワークショップ、防災に関する執筆活動

## 首藤 由紀 (しゅとう ゆき)

---

現職 (株)社会安全研究所副所長、ヒューマンファクター研究部 部長

### 主な経歴

- 1986年3月 東北大学文学部社会学科 (心理学専攻) 卒業
- 4月 (株)防災都市計画研究所 入社
- 1994年3月 早稲田大学大学院人間科学研究科 修士課程 修了
- 1997年3月 同 博士課程 課程修了退学
- 1997年5月 (株)防災都市計画研究所 退職
- 6月 (株)社会安全研究所 設立に参画
- 取締役 ヒューマンファクター研究部部長 就任
- 2005年10月 同 副所長 就任 (兼務)

専門分野 災害時・緊急時の人間行動、ヒューマンファクターズ、災害心理学

### 主な活動 (研究テーマ)

事故を引き起こす人間のエラーや災害時の人間の心理と行動など、事故・災害におけるヒューマンファクターの研究に従事する。緊急時の人間行動特性や組織の安全文化のほか、事故・災害時の対策本部における意志決定と情報伝達など、幅広く「リスク管理におけるヒューマンファクターズ」を専門としている。また、技術的な安全性と人々の安心感という2つの側面に配慮した安全規制のあり方などにも関心を持っている。

## 中野 直美 (なかの なおみ)

---

現職 千葉県我孫子市立布佐南小学校教諭

### 学歴・職歴

平成3年3月 千葉大学教育学部卒業  
平成3年4月～ 千葉縣市川市立稲越小学校  
平成7年4月～ 千葉縣市川市立第一中学校  
平成11年4月～ 千葉県我孫子市立湖北小学校  
平成18年4月～ 千葉県我孫子市立布佐南小学校

### 主な活動 (研究テーマ)

小学校での「総合的な学習の時間」における防災教育への取り組み。  
平成17年度 我孫子市立湖北小学校第6学年「防災教育チャレンジプラン」優秀賞受賞  
同上 「ぼうさい甲子園」小学生の部ぼうさい大賞受賞  
平成18年度 我孫子市立布佐南小学校第6学年「ぼうさい探検隊マップコンクール」  
審査員特別賞受賞  
平成19年度 平成19年防災功労者防災担当大臣表彰受賞

## 杉本 林太郎 (すぎもと りんたろう)

---

現職 千葉縣市川市立大野小学校教諭

学歴 大東文化大学文学部教育学科卒業

専門分野 国語科

### 主な活動 (研究テーマ)

本校では総合的な学習の時間を学級展開で行っている。今年度の5年生のテーマとして「命」があり、5年2組は「防災」から「命」考え、活動を行っている。

## 渡邊 淳 (わたなべ あつし)

---

現職 文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室長

学歴 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了

職歴 平成6年4月 科学技術庁 (現文部科学省) 入庁

宇宙開発、海洋開発、原子力安全、高校教育改革、地方行政 (生涯学習・文化) 等の業務に従事し、平成19年7月より現職。現在、地震調査研究・耐震研究等の防災科学技術、防災教育支援等の業務を推進。

## 吉田 雅一 (よしだ まさかず)

---

現職 千葉県総務部消防地震防災課長

略歴 1979年4月 千葉県庁入庁

2006年4月～ 現職として、消防活動の推進、地震対策の調査研究、自主防災組織の育成、防災ボランティア活動の促進、国民保護計画、石油コンビナート対策 等に従事



# 減災と防災教育

慶應義塾大学商学部准教授

吉川肇子



## 減災と防災教育

慶應義塾大学  
吉川肇子(きっかわとしこ)

## 減災のための防災教育の必要性

- 災害に対して正しい知識を持つ
  - 自分が住む地域で起こる災害の歴史を知る
  - 災害が起こるメカニズムを知る
  - ハザードマップ(災害予測図)で情報を得ておく
- 災害の起こり方や規模は想定を超えることもある
  - 自ら判断し、主体的に行動することが重要
- 人間の行動や考え方の特徴も知った上で防災教育を考える

## 災害に対する人々の考え方や行動 (心理学の貢献)

- たくさんの人(群集)の制御
  - 群集行動の法則性の解明
  - 災害時の流言やパニックの制御
- 災害に対する見方(リスク認知)

## 群集行動の法則性

- 慣習行動:いつもやっていることをする
- いのしし口:逆戻り行動
- 先導効果:リーダーにつられる(同調行動)
- 走光性:光の見える方向に進む
- 左側通行:0.3人/m<sup>2</sup>以上の密度で左側通行が生じる
- 近道行動:近道を通る
- (火災時)広く見える方向、煙が少ない方向、出火点から遠ざかる方向へ逃げる

## 群集制御の原則

- 滞留を作らない:常に群集を動かしておく
- 運動方向を交差させない
- 情報
  - 迷わせない:選択肢が複数あっても、指示する方法は1つの方がよい
  - 状況を理解させる
- 群集の絶対数を減らす
  - 空間的:人の数の絶対数を減らす
  - 時間的:時差出勤、時差退出
- リーダーシップ
  - 指示だけよりも、「連れて行く」(吸着誘導)方が有効

## パニックは起こるのか

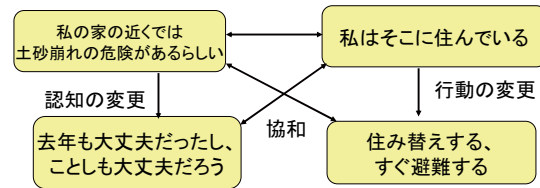
- パニックが起こるのはきわめてまれ  
脱出パニックの起こる条件
  - 生存の危機がある
  - 生存できる可能性がある
  - 脱出口が限られている
  - 時間が切迫している
- むしろなかなか異常事態と認識できない



## なぜ異常事態を認識できないのか

- 人々の災害に対する見方は一般的に甘い：「非現実的楽観主義」
  - 確かに災害が来たら恐い、でも私だけは大丈夫だろう
  - 去年まで大丈夫だったから、ことしも災害にはあわないだろう
- 「認知的不協和理論」で説明可能
  - 認知: 人々の考え
  - 不協和: 矛盾のある状態
  - 人は、心の中にある矛盾状態を解消しようとする

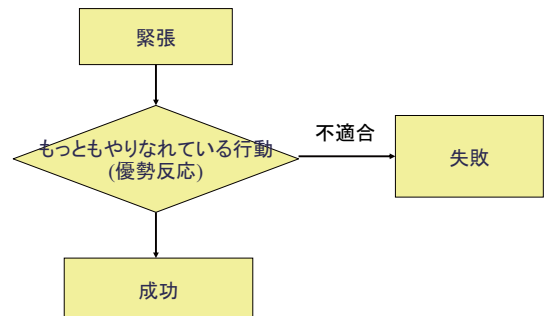
## 認知的不協和理論による説明



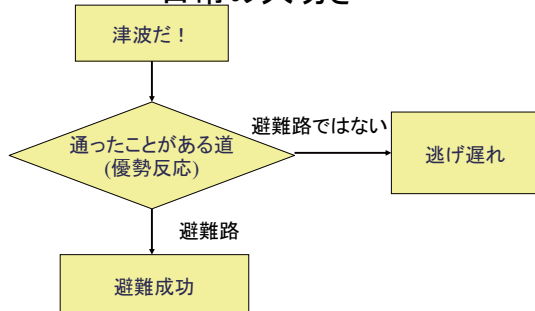
## 教育・訓練の重要性： (1) 優勢反応の理論

- 緊急時の慣習行動
  - 優勢反応の理論: 人は興奮や緊張すると、いつもやっていること(優勢反応)をする
- 緊急時のために、正しい行動を「優勢反応」として身につけておくことが重要
  - 避難訓練の大切さ
  - 「聞いたことは忘れる」「見たことは覚える」「やったことはわかる」

## 普段やっていないことはできない： 優勢反応の理論



## 普段やっていないことはできない： 日常の大切さ



## 教育・訓練の重要性： (2) 自己効力感

- 「やればできる」という気持ち(=自己効力感)
  - 自己効力感を持つと、次の困難な課題も取り組むことができる
  - 小さなことの積み重ねが実は決め手
  - スモール・ステップ( small step)の原理
- 1人ではできないことでも、人と一緒ならできることも(人間は同調の動物)

## 減災のための防災教育のポイント

- 自己効力感を育てる形で
  - 「そんなに大変ならできないことはない」では×
  - 「脅しの防災」はやめよう(静岡大学小山真人先生)
- 日常化
  - 防災だけに特化しないことにも意味がある
    - ・ 学習の機会を増やせる
    - ・ やればやるほど好きになる(「単純接触」の効果)
- 状況の認識ができるような学習を
  - 「このときはどうする」ではなく、「これはどういう状況か」を考える



## 分科会 1

「阪神・淡路大震災の被災体験などを通して防災教育を考える」

浅堀 裕 兵庫県立鈴蘭台高等学校教諭  
諏訪 清二 兵庫県立舞子高等学校環境防災科教諭



## 阪神・淡路大震災

### 1 被害状況

(1) 人的被害	死者	6,434人			
	負傷者	43,792人	(重傷10,683人、軽傷33,109人)		
(2) 住宅被害	全壊	104,906棟	186,175世帯		
	半壊	144,274棟	274,182世帯		
	一部損壊	390,506棟			
	合計	639,686棟			
	出火件数	269件	全焼 7,035棟	半焼 89棟	

### 2 避難所

1,153カ所 316,678人 (最大震災一週間後に記録)  
平成17年8月20日災害救助法による避難所を廃止される時点で、  
194カ所6,672人が「待機所」(学校以外の公共施設)に移動する。

### 3 仮設住宅

建設戸数 48,300戸 (ピーク時46,617戸入居)  
平成12年1月14日入居世帯全て解消  
平成12年3月末 解体撤去完了

### 4 千葉市に地震が発生したなら

「千葉市直下地震」

死者 2,600人 負傷者 31,900人 被災者 217,400人  
出火件数140件 26,400棟焼失  
全壊 71,000棟 半壊 20,800棟

(平成2年度「千葉市地震対策基礎調査報告書」)

「相模トラフ上の地震」

被災者 150,756人  
出火件数355件  
全壊 3,827棟 半壊11,651棟

(平成7年度「千葉市直下型地震対策調査報告書」)

## 避難所日記から

### 〔避難所体制のスタート〕

1995年1月17日

- 避難所の開設
- 衣類の配布（体育教官室の私物、備品などすべて）
- 遺体の安置・搬送（教員の自家用車で体育館から区役所へ）
- 重傷者の病院への搬送（教員の自家用車で）
- 倒壊家屋より生存者の救出、遺体の搬出
- 避難所への誘導（グラウンドから体育館へ）
- 東灘警察署より避難者の受け入れ
- 学校事務室を仮本部とし、緊急電話の設置
- 学校備品の毛布・布団をすべて避難所へ配布

学校に到着すると、宿直代行員の方により、学校の開放が既になされており、近隣の多くの住民が学校に避難していた。上記のような対応に追われて、一日が過ぎていった。当日出勤した教員は10名であった。行政からの指示は何一つなく、停電したまま、不安な夜を迎えた。その時、避難者数は1,000名を超えていた。そして、深夜になり、救援物資として、毛布200枚とコッペパン300個が届く。避難者のすべてに配布するだけのものがなく、毛布は深夜に、コッペパンは翌朝に配布した。その時の避難者の表情は忘れられない。

1月18日

- 早朝よりコッペパンの配布
- 保健室での重傷者の看護
- 倒壊家屋からの遺体の搬出・車での搬送
- LPGタンクガス漏れによる避難勧告
- 避難者数は2,000名を超える
- 救援物資の配布（懐中電灯・使い捨てカイロ）
- 殺到する電話の対応  
（避難の有無・安否確認、修学旅行生の家族との連絡等）

この日は特に、御影浜手のLPGタンクのガス漏れによる避難勧告が出され、国道43号線近辺からの避難者が押し寄せた。この状態は、避難勧告が解除される夕方まで続く。加えて、本校第2学年が信州にスキー修学旅行に出かけており、被災した留守家族も多く、中には両親と弟を失った生徒もあり、その安否確認は出勤した職員で対応した。また、全国各地から殺到する電話は、近隣住民の家族・知人が本校に避難しているかどうかを問い合わせるものであり、避難者名簿もなく、数少ない職員では十分に対応できず、多くの方々に気まずい思いを持たれたことと思われる。しかし1本の電話では限界もあり、仕方ないことであったと思う。懐中電灯を天井に照らし、寒さに震えながら夜を明かした。

1月19日

- 修学旅行生の帰着、状況説明
- 保護者への対応
- 報道陣への対応

学校で唯一残された同窓会館で、修学旅行から無事戻った第2学年生徒にこの大震災の状況を説明し、出迎えた保護者とともに帰宅させた。しかし、帰宅したといっても、家が全壊・半壊等で自宅には帰れず、避難所あるいは親戚や知人のところへ直行した生徒がいる。両親・弟を失った生徒を取材しようとする報道陣が押し寄せてきた。

1月20日

- 避難者からボランティアを募り、トイレ掃除の実施
- プールの水を汲んでトイレに

- 電気の工事、電気の復旧
- 深夜を問わない救援物資の到着
- 避難者名簿作成に着手

避難者の中からも苦情の出るほどトイレの汚れが目立ち、トイレ掃除のボランティアを避難者の中から募ることとなり、多くの方が参加してくれる。この避難所のことを避難者自身が全員のためにボランティアとして任務分担をするという体制のスタートであった。この時から現在に至るまで、清掃に関しては、生徒が担当していた時より美しい学校の状態が続いている。この日、電話回線が3本復旧し、職員による電話の対応が可能となり、全国各地からの問い合わせに答えられるようになった。2月上旬までほぼ24時間体制で続けられた。

1月21日

- 避難者会議開催の準備
- 某宗教団体炊き出し隊の到着（～28日まで）
- 仮設トイレ16基の到着
- 区役所職員の派遣
- 続々到着する救援物資への対応
- 避難所会議の開催
- 避難所体制の整備

この日になって、ようやく東灘区役所職員が派遣されてきたが、どういう仕事をするべきか指示されていず、体育科教員を中心とする本校職員の補助的役割を果たすのみであった。施設を提供する学校側の要望を教頭より、避難者の心得等を地元選出の市議員や医師により行う避難所会議を開催、これがやがて、定期的に行われる代表者ミーティングに引き継がれている。この時点で約1,200名の避難者を数えていたので、避難者名簿を整理した。この日、御影高校避難所の正式発足となったのである。ここで特記すべきは、某宗教団体から避難者及び近隣の被災者に炊き出しをしたいという申し出があり、神戸市より提供される冷たい食事だけよりはという思いで、ありがたく受けることとした。そして、御影高校避難所の炊き出しは、その団体の撤退後も、徳島県建設業協会・富山県小矢部市など多くのボランティアの食材提供に支えられて、継続して行われている。

1月22日

- 責任者ミーティングの定例化（朝・夕）
- 避難者名簿の入力

本校2号館、第一体育館、第二体育館（格技棟）の3施設で班が編成され、それぞれの責任者が選出され、当初は毎日2回、やがて1日1回、現在は週3回の責任者ミーティングが開かれている。この日、前日に整理した避難者名簿のパソコン入力を本校職員が行い、全体の把握と外部からの問い合わせに速やかに応えることが可能となった。

### 【震災後100日を過ぎて】

こうして、御影高校避難所のスタートとなったが、はたして私たち教職員がこのような非常時にあってどのような対応ができるかという点について、さまざまな思いがよぎる。震災後3日間の出来事は異常というべきものであり、あらゆる混乱はかつてない経験であり、そして毎日毎日の出来事への対応は教師の仕事とはいえないものであった。しかし、学ぶべきことも数多くあった。人のやさしさ、神様のようなボランティアの青年、日本全国から寄せられた善意、互いにいたわる共同生活、垣間見る人生、この3ヶ月間の出来事は語り尽くせない。いま避難者は300名を割った。少しずつであるが仮設住宅に入居することとなり去っていく人々との別れがある。仮設住宅を待ち切れず民間のアパートを探し去っていく人々との別れもある。一人一人が避難所を出てからの生活に備えながら、新しい出発をするべき時がやってきた。御影高校避難所の世話役になってしまった私は、新年度になって正常化された授業とともに本来の職務に戻った。3月末までのように、避難所のお世話が中心の生活から離れていくことが、避難者の問題は避難者自身が自主的に解決を図りながら進めていくことにつながると考えている。そして、避難所が解散する日も近い。一抹の淋しさも感じるこの頃である。



# 阪神・淡路大震災の教訓

## 1 なぜこのような大きな被害になったのか？

### (1) 大都市直下型地震

- ・ 1923年 関東大震災 M7.9 死者約10万人 全壊70万戸
- ・ 1946年 南海道地震 M8.0 死者1,330人 全壊11,591戸
- ・ 1993年 北海道南西沖地震（奥尻島） M7.8 死者230人津波被害

### (2) 地震安全神話

「関西に地震は来ない」

	平成3年地震に関する調査	平成10年意識調査	平成15年意識調査
関西	8.4%	兵庫県 27.7%	40.7%
関東	37.4%	46.1%	
全国	22.0%	36.1%	

### (3) 都市機能のマヒ

- ① 風水害に重点をおいた防災体制であった
- ② 初動体制の不備
- ③ 中枢部分の倒壊
- ④ 防災マニュアルがなかった
- ⑤ 行政の対応能力には限界があった

## 2 阪神・淡路大震災の教訓

- (1) 命の大切さ尊さ
- (2) 助け合いの大切さ
- (3) ライフラインの大切さ
- (4) ボランティア活動の大切さ

## 3 教訓からどのような取り組みがされてきているか？

行政・・・地域防災計画の見直し・新しい町づくり

企業・・・危機管理体制の見直し

学校・・・防災マニュアルの見直し

新しい防災教育の推進

家庭・・・危機管理の徹底

地域ボランティアへの参加

## 1. 阪神・淡路大震災の教訓

- ・ 発生から 15 分の間に 90%以上の方が亡くなった
- ・ 9 割以上の市民は市民に助けられたといわれている
- ・ 広域、同時多発災害では専門家（自衛隊、消防など）の救助はあてにできない
- ・ → 自分たちの命は自分たちで守る
- ・ それも、避難訓練や消火訓練といった事後対応だけで守るのではなく、事前の備えで守る

## 2. 心のケア

- ・ 災害や事件、事故での三つの反応  
「トラウマ反応」「喪失反応」「日常的なストレス反応」
- ・ 喪失反応で心に傷を受けると、次のステップを踏む  
喪失体験 → 否認 → 怒り → 絶望  
→ 喪の作業 → 回復
- ・ トラウマ（心の傷）に意味をつけていく作業を通してトラウマをスティグマ（心の傷跡）に変えていく

## 3. 防災・防災教育にとりくむ原動力

- ・ 実は、防災・防災教育に一生懸命とりくんでいる人を見てみると、この心の傷に意味を与えようともがいてる人がたくさんいることに気づく
- ・ それが防災・防災教育にとりくむ原動力
- ・ （もちろん、逆もあるが・・・）

## 4. 体験と風化

- ・ よく訪ねられる質問：震災体験の風化と防災教育
- ・ その考えには反対
- ・ 学校での平和教育実践家はみんな戦後生まれ
- ・ オールドカマー、ニューカマーの人権教育実践家の国籍はほとんど全部が日本
- ・ 彼らはなぜすばらしい平和教育、人権教育を出来るのか
- ・ なぜ防災なら出来ないというのか
- ・ そこには確立されたシステムがあるはず

## 5. 体験に学ぶ

- ・ 実は、彼らは、体験に学んでいる
- ・ 語り部の話を聞き、本を読み、映像を観て、実践している
- ・ 防災教育も同じ手法で出来る
- ・ 体験の風化は関係ない
- ・ 過去の体験に学ぶことが大切

- ・ 風化を口にすることが、防災・防災教育の内なる崩壊だと考える

## 6. 体験とは何か

- ・ 1：直接被災体験
- ・ 2：被災地を支援した体験（ボランティア）
- ・ 3：1と2の人の体験から学ぶ
- ・ 少なくとも、防災を広めよう、防災教育を進めようとする人は、この直接体験か代理体験が必要
- ・ それが防災・防災教育を進めようとする原動力
- ・ 直接体験、直接支援体験した人の原動力は強い
- ・ でも、同じだけ、学んだ人の原動力も強い

## 7. 原動力と価値と象徴

- ・ 朝顔と命
- ・ ポプラと感謝
- ・ 笑顔と励まし

## 8. 学力と防災教育

- ・ 葉っぱ 幹 根っこ

## 9. 3つの防災教育

- ・ **Survivor** となる防災教育  
避難だけではない、備えが大切
- ・ **Supporter** となる防災教育  
自分に出来ることをする  
過去の教訓を学んでおく
- ・ 市民性を育む防災教育  
「災害時には訓練したこと以外できない」  
「日常に持っている力の転用」

## 10. ○○と防災

- ・ 得意技と防災：専門家の得意技、市民の得意技  
(例) 建築家が防災、心理学者が防災、社会福祉士が防災、調理師が防災・・・・
- ・ 好きな教科と防災、好きな領域と防災  
(例) 英語と防災、絵画と防災、家庭科と防災、国語と防災・・・・  
(例) 福祉と防災、環境保全と防災、国際理解と防災、・・・
- ・ 夢と防災  
子どもの将来の夢と防災をつなげていく  
→ 防災が身近に、防災が好きなものに

## 11. 結論

- ・ 死なないための防災・防災教育から  
ゆたかに生きるための防災・防災教育へ

### 被災体験と価値と象徴

兵庫県 芦屋市立精道小学校



新田小学校HPより

新潟県 川口町立田麦山小学校

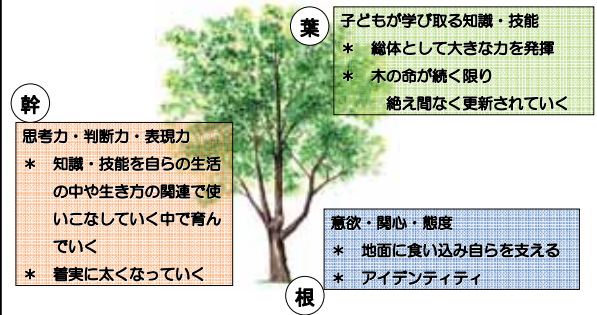


兵庫県 豊岡市立新田小学校



田麦山小学校HPより

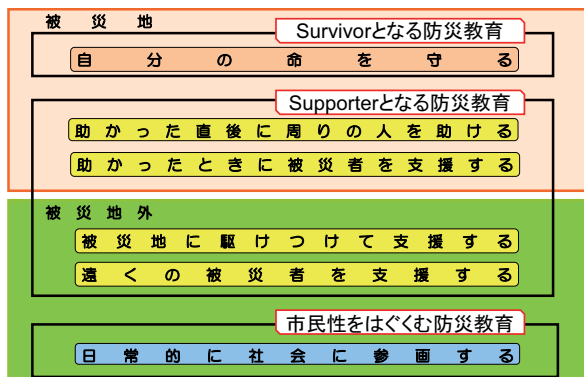
### 確かな学力の保障: 学力の樹



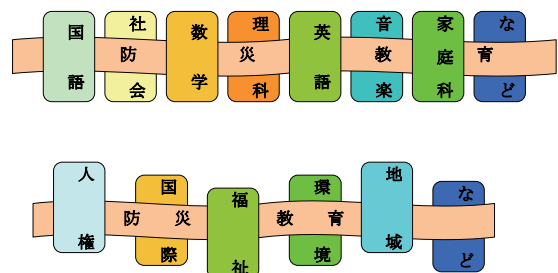
体験を通して根っこを広げる

「学力を育てる」 志水宏吉 岩波新書

### 人の行動による防災教育の分類



### どの教科・領域でも防災教育





## 分科会 2

「ゲームで楽しく防災教育を考える」

細川 顕司 (財) 市民防災研究所事務局長 (兼) 調査研究部長  
首藤 由紀 (株) 社会安全研究所副所長



## 講演資料 第 2 分科会

財団法人市民防災研究所 事務局長 細川 顕司

### ☆「防災ゲーム研究会」って？

「防災教育の教材として、何かいいものはないだろうか」というのは消防職員ならだれでも思うことでしょう。その種の仕事に携わることの多かった筆者の頭の隅にも、いつもそのことはありました。

いまから 4 年半ほど前、偶然「教育訓練ゲーム」というものを知りました。楽しみながらできる「防災教育」の教材ができるかもしれない、そう思ったのがきっかけでした。

### ☆「防災教育訓練ゲーム研究会」の立ち上げ

2003 年 5 月 20 日、仲間に「防災教育訓練ゲーム研究会へのお誘い」というペーパーを送りました。当初、消防職員 19 名と一般人（と言っても防災に関わりのある）2 名に呼びかけました。一般人を加えたのは消防の独断に陥るのを避け、普通感覚を盛り込んだものにしたいとの思いからでした。

5 月 30 日、第 1 回の研究会の出席者は 11 名でしたが、呼びかけから僅か 10 日なのにあちこちから入会希望のアプローチがあり、会員名簿は 32 名に増えていました。

「3 回くらいやればなんとか…」と軽く考えて始めたのですが、翌年 3 月 13 日まで計 12 回開催し、やっとひとつのゲームを完成させることができました。

なお、会の名称は途中で「訓練」を削除、その後「教育」も削除して「防災ゲーム研究会」としています。

### ☆「天ぷら油火災」をゲームに仕立てる

最初に完成させたゲームは「ぼうさい〈ダ・ズ・ン〉（天ぷら油火災編）」と、それをもう少し簡単にした「ぼうさい Do Through 10（天ぷら油火災編）」（どうするテンと読む）の二つです。

テーマとして何を取り上げるかについては議論がありましたが、最初に取り組むのはできるだけ普遍性を持ったものという方向が定まり、一般住宅の火災でも日々頻発している「天ぷら油火災」を扱うことになりました。

途中の紆余曲折については詳述しませんが、家族を構成する人たちの想定される行動パターンがあまりにも多く、とりあえず完成させたのは「お母さん編」のつもりです。今日はそれをご紹介しますが、今後機会を捉えて「お父さん編」「子ども編」「おばあちゃん編」にも取り組みたいと考えています。

因みに、〈ダ・ズ・ン〉とは「ダース」つまり選択肢の「12」を意味しています。」

### ☆今日紹介する「ぼうさい〈ダ・ズ・ン〉」のシナリオ

山本さんのお宅はお父さん、お母さん、中学 2 年生のももちゃん、小学 5 年生の太郎君、



72歳のおばあちゃんの5人家族です。この、都心から約1時間のニュータウンには、太郎君が生まれたときに木造2階建ての建て売り住宅を買って引っ越してきました。おばあさんは杖の助けを借りないと歩きにくいのですが、自然が残っている家の周りを散歩することをとても気に入っています。

今日は日曜の夕方、お父さんは庭で趣味のゴルフの素振りをしています。おばあちゃんは居間でテレビを見ているところです。ももちゃんは2階の自分の部屋で勉強中、太郎君も2階で昼寝をしています。

お母さんは木綿のエプロンをして夕食の支度で大忙し。家族みんなが大好きな天ぷらを揚げようと、直径30センチほどの鍋に天ぷら油を2リットルほど入れてガスコンロにかきました。換気扇も回して準備はOK(オーケー)。ちょうどそのとき居間の電話がなりましたが、おばあちゃんはすぐには立ち上がれないのでお母さんが電話に出ることに。油の温度がまだ上がっていないからコンロの火を細くして電話に出たら、仲良しの中川さんからの電話でした。ついつい話し込んでいるうち、愛犬のコロがワンワン騒ぐのでハッと気がついて台所に戻りました。そこでは、もう炎は鍋から上に換気扇まであがり、部屋中に油の焦げたにおいと煙が立ちこめていました。

さあたいへん！ あなたがお母さんならどうしますか？

### ★もうひとつのゲーム「ぼうさい駅伝」

「すごろく」は日本人の誰もが親しんだことのあるゲームでしょう。多くの人にやってもらうことを考えると、サイコロを振って出た目の数だけ進むという約束事は説明の必要もありませんから、「すごろく」のゲームは無数にあります。

「駅伝」も「EKIDEN」という世界共通語になっているほどですから、日本人には馴染みがある陸上競技です。私たちはこの二つを結びつけました。「防災」に関する問題を作成し、問題に正解すれば出たサイコロの目だけ進めるというのを基本ルールにしました。

どんなゲームでも、ある程度の形ができると何度も自分たちで試行してみます。「ぼうさい駅伝」も作成過程で「これは面白いゲームになる」という予感があったのですが、合宿して試行を重ねてももうひとつ盛り上がりませんでした。そのとき、メンバーの一人が「そうだ！」と叫んで浴衣の帯を持ってきてみんなに配り、それを“たすき”代わりにかけました。すると、ゲームが俄然盛り上がったのです。“たすき”がなければ「駅伝」は成り立たなかったのです。いい大人が、一見つまらないことにまでこだわりながらゲームを作っているのです。

「ぼうさい駅伝」のもうひとつのポイントは、白紙の問題カードを入れてある点です。

「災害」というのは極めて地域特性が顕著に表れるものですし、なにより、ゲームを楽しみながら「防災学習」するだけでなく、自ら問題を作成することで、より学習効果を上げることができるように工夫してあります。

さあ、今日は思いっきり楽しんでください。

## 分科会 3

### 「防災教育の実践例と防災教育モデル事業中間報告」

中野 直美 我孫子市立布佐南小学校教諭  
杉本 林太郎 市川市立大野小学校教諭

#### 防災教育モデル事業の代表発表者

大山 拓子 習志野市立大久保東小学校教頭  
田迎 宏之 松戸市立小金北小学校教頭  
伊達 一憲 成田市立向台小学校教諭  
高木 康博 九十九里町立九十九里小学校教諭  
豊崎 悦朗 館山市立富崎小学校校長



## 災害に負けない子どもたちを育てるために！

～子どもたちが自ら防災の大切さを実感し、意欲的に防災に取り組む学習を目指して～

千葉県我孫子市立布佐南小学校 教諭 中野 直美

### 1. 防災を身近な問題としてとらえるための導入法

#### ☆防災ゲーム <ぼうさいダック> の活用

地震・雷・洪水・誘拐・・・etc 子どもたちを取り巻く様々な危険から、身を守るための方法を動物のポーズに合わせて学ぶ。

T. 地震の時には、どんな動物のポーズが必要??

S. 「ダック！」 まずは、頭を守ることが大切！！

「ぼうさい Duck」

(社) 日本損害保険協会

カードの表裏に、「危険」とその「対処法」を対に印刷。児童は二人一組で、まずは対処法を動物のポーズで表した面を表にして、教師の見せる危険カードと対になっているカードを取り合う。

次は、教師が対処法、児童が危険カードを探す。

⇒ **楽しみながら、身近な危険の多さに気づき、その対処法を知ることができる。**

#### ☆校内防災オリエンテーリング

##### ○防災写真クイズ「これはなに？」

- ① 防火扉
- ② 消火栓
- ③ 非常口誘導灯
- ④ 消火器
- ⑤ 避難器具
- ⑥ 火災報知機

##### ○どこにあるか探してみよう！

校内をグループごとに探検。①～⑥までの防災設備をできるだけたくさん見つけて、校舎配置図にシールで色分けして表示する。

\* 普段何気なく目にしていた防災設備。どの辺にあるのかは、だいたいわかってはいたけれど、こんなにたくさんあるとは・・・。

\* たくさんあるけれど、防災設備の種類ごとにある場所には決まりがあるみたいだぞ。

##### ○校内の防災設備はどんなところにあったかな？

- ・校舎配置図に貼った色シールから、それぞれの防災設備の役割を知る。
- ・至る所に防災設備があることから、被害を最小限に食い止めることが重要であることを知る。
- ・被害を最小限に抑えるために、自分達にできることは何か考える。

⇒ **防災設備は、こんなところに、たくさんあるんだよと教えられるよりも、実際に自分達で探し回って、実感することによって驚きも倍増。**

☆学校にいるときに発生したらもっとも怖い災害は？⇒ 大規模地震災害

「かこの地しんさい害から、学ぼう！」

- ・ パワーポイントの資料から、日本で発生した過去の地震の被害について知る
- ・ 大きな地震を生き抜くために必要なことは、自助・共助、そのための日ごろの備えであることを知る

新潟県中越地震、阪神・淡路大震災の被害状況を元に、地震によって起こる被害をしり、その被害をできるだけ小さくする努力が必要であるということを知り、今後の防災学習への意欲付けを行う。



## 自分達の身を守るための方法を学び、身につけていこう！！

### 2. 実際に役に立つ学習の積み重ね

- ☆ 西部防災センターでの体験学習
- ☆ 自分の住んでいるまちの防災設備を確認しよう
- ☆ 非常持ち出し袋には何を入れておいたらいい？
- ☆ 建物の耐震性って何？「紙ぶるる」を使って
- ☆ 非常時に役立つ、簡単便利な「ほのぼの明かり」を作ってみよう！

「紙ぶるる」  
作成 名古屋大学福和研究室（鶴田庸介・倉田和己）、小倉公雄、応用地震計測

「ほのぼの明かり」  
(財) 市民防災研究所

### 3. 自分達が学んできたことをみんなに伝えよう！

「楽しみながら学んできたことを、楽しく伝えよう」～学校行事「南っ子まつり」での発表～

- ☆ ぼうさいダックコーナー 「自分の身は自分で守ろう！」
- ☆ ぶるるコーナー 「地震の強さ、こわさを知ろう！」
- ☆ 防災クイズコーナー 「防さいせつびについて学ぼう！」
- ☆ ほのぼの明かりコーナー 「役に立つ明かり作り」

### 4. 防災に必要な知恵をクイズにしてゲームを作ろう！

- ☆ 「ぼうさい駅伝」(防災すごろく)をモチーフに、防災ゲームを作成し、他の学年の人たちにも楽しみながら学んでもらおう！

「ぼうさい駅伝」  
防災ゲーム研究会  
(財) 市民防災研究所

### 5. 子どもたちをその気にさせるには…

☆まずは、楽しみながら防災の本質に気づかせ、興味を持たせること。

☆必要な知識は教え込むのではなく、様々な仕掛けを準備し、気づかせること。

(ゲーム、KYT、実際に体験 etc.)

☆自分達が得た知識を周りの人たちへ伝えていくこと。

伝えるためには、正しく理解しなくてはいけない(何となくだった知識がはっきりとしたものへ)。

楽しく伝える方法を考えていると、自分達も楽しくなる(自主的な活動、ユニークな発想)。

自分達が楽しみながら伝えていると、伝えられる側も楽しめる(やらされている発表は見えてつまらない)。

**防災学習が終わったときに、子どもたちが、「楽しかった」「役に立った」「これからも続けていきたい」と言えるような学習を目指して、教師側も子どもたちの活動を楽しみながら支援していきたいなあと考えています！**

## 災害に負けない子どもたちを 育てるために！

～子どもたちが自ら防災の大切さを実感し、  
意欲的に取り組む学習を目指して～

我孫子市立布佐南小学校  
教諭 中野 直美

## 我孫子市立布佐南小学校 4年生での実践

- 楽しみながら、防災の大切さに気づく
- 楽しみながら、地震災害の仕組みについて知る
- 楽しみながら、自分達にできることを学ぶ
- 楽しみながら、自分達の身につけたことを他の人に伝える

## 防災を身近な問題として とらえるための導入法

### ①防災ゲーム <ぼうさいダック>



## 「ぼうさいダック」とは・・・

地震・雷・洪水・誘拐・・・etc

子どもたちを取り巻く様々な危険から、身を守るための方法を動物のポーズに合わせて学ぶ。

地震・・・「ダックのポーズ」頭を守る

雷・・・「カメのポーズ」身を低くする

洪水・・・「ウサギのポーズ」情報をしっかり聞く

誘拐・・・「ヒツジのポーズ」大きな声を助けを！

➡楽しみながら、身近な危険の多さに気づき、  
その対処法を知ることができる。

### ②校内防災オリエンテーリング

○防災写真クイズ「これは何？」



### ②校内防災オリエンテーリング

○どこにあるか探してみよう

☆防災設備をできるだけたくさん見つけて、校舎配置図にシールを貼ろう

☆どのチームが一番多くシールを貼ることができるかな？



## ②校内防災オリエンテーリング

○校内の防災設備はどんなところにあったかな？

- ☆なぜ防火扉は階段にあるのだろうか？
- ☆火災報知機がすべての教室にあったり、大きな教室には複数設置されていたりするのなぜだろう？

➡教えるのではなく、気づかせることで強く印象づけることができる。

## 学校にいるときに発生したら、 もっとも怖い災害は？

### 「過去の地震災害から学ぼう」

新潟県中越地震、阪神・淡路大震災の被害状況を元に、地震によって起こりうる被害を知り、その被害をできるだけ小さくする努力が必要であることを知る。

自分達の身を守るための方法を学び、  
身につけていこう！！

## 実際に役に立つ学習の積み重ね①

### ☆西部防災センターでの体験学習



## 実際に役に立つ学習の積み重ね②

### ☆自分の住んでいるまちの防災設備を確認しよう

- ・消火栓
- ・防火水槽 など

### ☆非常用持ち出し袋には何を入れておいたらいい？

➡家族と相談してみよう！

## 実際に役に立つ学習の積み重ね③

### ☆KYT

(危険予知トレーニング)  
地震発生時、  
この部屋のどこが危険？

震度階級表を元に、震度ごとにこの部屋がどうなるか予想。



## 実際に役に立つ学習の積み重ね④

### ☆建物の耐震性ってなに？

「紙ぶるる」を使って・・・





## 実際に役に立つ学習の積み重ね⑤

### ☆ほのほの明かり作り



## 実際に役に立つ学習の積み重ね⑥

### ☆簡単便利なコンロ作り



自分達が学んできたことを  
みんなに伝えよう！

### ☆「南っ子祭り」での発表

- ぼうさいダックコーナー
- ぶるるコーナー
- 防災クイズコーナー
- ほのほの明かりコーナー

防災に必要な知恵をクイズにして  
ゲームを作ろう！

「ぼうさい駅伝」（防災すごろく）を  
モチーフに、防災ゲームを作成し、  
他の学年の人たちにも  
楽しみながら学んでもらおう！！  
（今後の予定・・・）

子どもたちをその気にさせるには・・・

- 楽しみながら防災の本質に気づかせ、  
興味を持たせる。  
(導入の重要性)
- 必要な知識は教え込むのではなく、  
様々な仕掛けを準備し気づかせる。  
(ゲーム・KYT・体験etc)



## 自分達が得た知識を 周りの人たちに伝えていこう！！

☆伝えるためには、正しく理解しなくてはいけない。

⇒何となくだった知識がはっきりとしたものへ

☆楽しく伝える方法を考えていると、自分達も楽しくなる。

⇒自主的な活動、ユニークな発想

☆自分達が楽しみながら伝えていると、伝えられる側も楽しめる。

⇒やらされている発表は見えてつまらない

## 子どもたちが生き生きと学習する 防災学習を目指して・・・



END

## 「学校と地域の防災教育モデル事業中間報告」資料

習志野市立大久保東小学校  
 校長 倉光正力  
 教頭 大山拓子  
 教諭 岩 渕 慎太郎

## 1 地域の特色

昭和38年に創立し、大変古い学校である。学校の周りは、道路で囲まれていて交通量の多い学区である。近くの京成大久保駅付近には、商店街が広がっている。踏切があるので、朝、通学路の途中で渋滞ということが多い。

3・4年前からマンション等がたくさん建ち並び、児童数が増えてきている。また通学路が狭く危険箇所も増えてきている。

## 2 取り組み内容

## ① 防災についての職員研修会

- ・市役所安全対策課に講師をお願いし研修会を開く。

## ② 合同会議

- ・地域の方々の協力を得るために、町会・PTA・教育委員会・教育事務所・学校の代表者で、最初の話し合いを実施する。
- ・年間の予定の中での地域の協力について、日程を決める。

## ③ 引き渡し訓練に協力

- ・引き取りに出来ない家庭の児童について、地域ごとに分かれ、地域の方と職員で近くまで送り届けた。
- ・帰り道に危険な箇所があったら、親子で通学路を確認しながら話して帰る。
- ・訓練の数日後、危険箇所について見つけたところを、学区内の地図に書き込んで提出してもらい集計し、各家庭に配布。
- ・多くの保護者が迎えに来るので、簡易トイレ・炊き出し用釜の展示をし、あまり見たことのない防災機材に触れられるようにした。

## ④ 防災体験（大東小まつりの行事の中で体験コーナーを設けた。）

- ・消防署、消防団、地域、安全対策課の方々の協力により、体験コーナーを設け子どもたちから大人まで取り組めるように校庭いっぱい各機材を取り付け実施した。
- ・コーナーを設けることにより、「防災啓発」を。

## （展示）

- ・はしご車
  - ・救助車
  - ・簡易トイレ
- （組み立て）

## （体験）

- ・地震体験車
- ・炊き出し
- ・応急の仕方
- ・水消火訓練
- ・バケツリレー

## ⑤ 習志野市総合防災訓練参加

- ・習志野市の総合防災訓練に代表児童が参加。
- ・消火訓練、炊き出し、負傷者役、プラカード持ち等訓練に参加。

## 今後

## ⑥ 講演（児童・保護者・教職員対象）

- ・土曜参観日に講演を実施する。
- ・市民防災研究所から講師を招き、参観日に一授業として、児童・保護者に向けて、防災について講演を実施する。低学年・高学年と分けて取り組む。
- ・教職員は、別な日に研修会を設ける。

## ⑦ 防災マップ作り

- ・5年生を中心にDIGによるマップ作りを実施する。
- ・地域の方の協力を得ながら作成にあたる。

## ⑧ 防災に関する資料の掲示

- ・写真や資料を掲示することにより、防災についてより理解が深まっていく。
- ・児童のみならず、保護者や地域の方や来校者の方々にも理解してもらい、災害時の協働体制を築いていけるようにしたい。

## 学校と地域の防災教育モデル事業 中間報告

松戸市立小金北小学校

### 1. 地域の特徴

- (1) 千葉県松戸市北東部に位置し、学区は流山市に隣接している。
- (2) 学区は古くは水田地や畑地であったが、土地区画整理事業により開発された住宅地として全国各地から住民が居住するにいたった。
- (3) 保護者の子どもに対する期待は大きく、学校教育に対する関心も高く協力的でありPTA活動や子ども会活動が活発な地域である。

### 2. 事業の内容

#### (1) 目 標

- ① 児童に地域防災の実態を調べさせ、防災への興味・関心を高める。
- ② 様々な体験活動を通して、防災への具体的な知識や技能を高める。

#### (2) 取り組みのポイント

- ① 夏季休業中の自由課題として地域の防災マップづくりや乾パンを使った料理づくり等を行わせ、家庭で防災について考えるきっかけとする。
- ② 近隣の消防署や町会との連携をとり児童引き渡し訓練や避難訓練等の中で次の体験活動を行う。
  - ・消火訓練      ・はしご車体験      ・起震者体験
  - ・煙道体験      ・炊き出し体験      ・仮設トイレ設置体験

### 3. 実施日程

- |     |  |
|-----|--|
| 5月  | 避難訓練（新しい教室からの避難経路を知る）                    |
| 7月  | 防災教育の保護者への説明会<br>自由課題の説明（防災マップ・乾パンクッキング） |
| 8月  | 自由課題への取り組み                               |
| 9月  | 避難訓練・引き渡し訓練（消火訓練・はしご車体験）<br>保護者＋消防署との連携  |
| 10月 | 防災意識普及講演会（家庭教育学級＋松戸市防災課との連携）             |
| 11月 | 防災体験（起震車・煙道・炊き出し・仮設トイレ）                  |
| 2月  | 防災講演会・避難訓練                               |

### 4. 成果と課題

#### (1) 成 果

- ・ 防災マップや乾パンクッキングを課題としたことにより、児童だけでなく保護者の防災に対する意識が高まってきた。
- ・ 近隣の町会との連携を深めることができた。

#### (2) 課 題

- ・ 学校を中心として、地域・家庭への防災意識のさらなる向上をどのように図るか。
- ・ 防災教育を教育課程内のどこに位置づけるか。

平成19年11月10日  
成田市立向台小学校  
教諭 伊達 一憲

### 分科会3「防災教育の実践例と防災モデル事業中間報告」

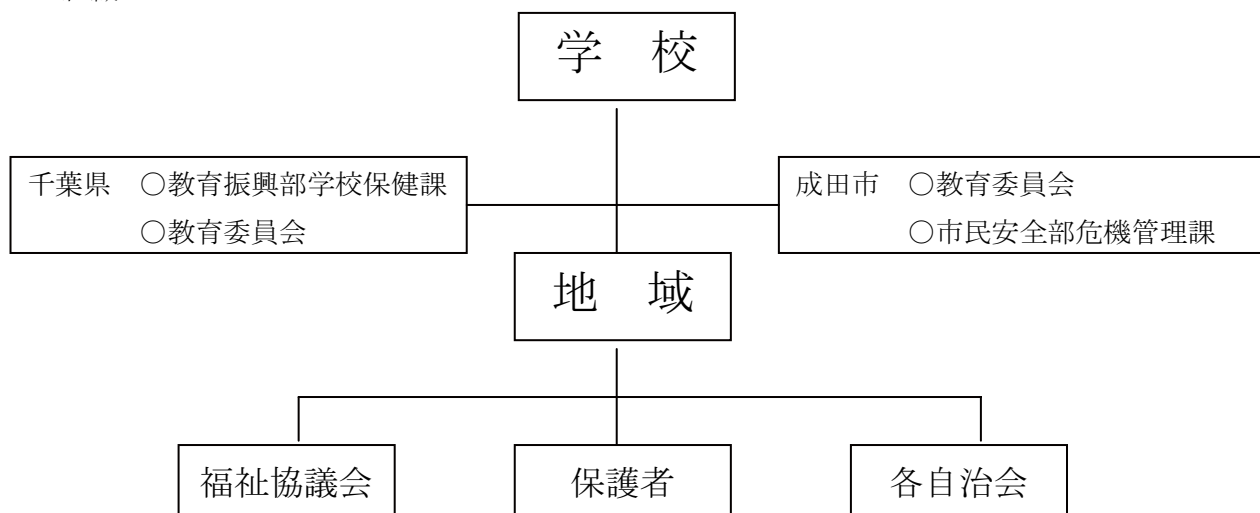
#### 1. ねらい

学校と地域が連携した防災教育のあり方を検討し実践することを通して、地域に密着した学校と地域住民との災害時における協働体制を築く。

#### 2. 地域の特徴

成田空港の開港に伴い、成田ニュータウンの中に一番最初に開校した学校である。高層住宅が3分の2をしめ、分譲住宅が3分の1をしめる学区で、地域住民の転出入も多い。また、保護者はほとんどが会社員で教育熱心である。

#### 3. 組織



#### 4. 研修経過及び予定（平成19年度）

- 5月7日（月） 第1回校内防災教育研究推進委員会開催
- 11日（金） 第1回校内児童避難訓練実施（地震想定）
- 22日（火） 第2回校内防災教育研究推進委員会開催
- 23日（水） 第1回防災教育担当者連絡会議開催  
（県担当者及び市担当者，学校関係者）
- 6月7日（木） 児童地区別集団下校実施
- 14日（木） 第1回オープンスクールにて5校時に親子映画会「地震と安全」  
児童引渡し訓練実施
- 7月18日（水） 第2回防災教育担当者連絡会議開催  
（県担当者及び市担当者，学校関係者）

- 28日(土) 防災教育地区説明会  
(社会福祉協議会会長, 学区各自治会長, 豊令会長, 本校PTA本部, 学校関係者)
- 8月21日(火) 校内防災教育伝達講習会開催(教職員研修)
- 9月6日(木) 第2回校内児童避難訓練実施(地震と火災想定)
- 10月20日(土) 2007地域防災教育フェスタ(第2回オープンスクール)実施  
※ 詳細は, 裏面参照
- 11月10日(土) 地震防災に関するフォーラムにて「防災教育の実践例と防災モデル事業中間報告」
- 1月11日(金) 第3回校内児童避難訓練実施予定(休み時間の災害想定)
- 2月 日( ) 起震車体験  
日( ) 第3回防災教育担当者連絡会議開催予定

5. 2007地域防災教育フェスタ(地域ぐるみの防災教育)について

- ① 日時 平成19年10月20日(土)
- ② 参加者 児童, 保護者, 豊令会, 中央福祉協議会, 北中台自治会
- ③ 日時と概要

2校時 (9:25~10:10) 全学級, 防災教育をテーマにした授業展開  
(地域, 保護者参観)

学 級	学 習 テ ー マ
かびあ, 1の1, 1の2	そのときどうする
2の1, 2の2	教室外で災害が起こったら
3の1, 3の2	防災知識を身につけよう
4の1, 4の2	防災知識を広げよう
5の1, 5の2	火災と地震と気象災害を知ろう
6の1, 6の2	災害が起きたら(避難所の役割と生活)

3~4校時 (10:30~12:10) 講演会&1000ヶ所ミニ集会

講演会『そこから出発』~阪神大震災から学んだこと~

講師 : 元神戸市立本山第二小学校長 岩本しず子 氏

昼食 (12:10~13:00) アルファ米等の防災食を試食

5校時 (13:30~14:15) 防災体験活動

水バケツリレー, 水消火器, 煙体験ハウス, 備蓄品展示

全校児童を3つのグループに分けて, 全活動を実際に体験したり, 説明を聞いたりした。

下校 (14:35) 地区別に集合し, 保護者や地域の方と一緒に下校

※ 詳しい活動の様子等は, 中間報告会で発表します。

## 学校と地域の防災教育モデル事業提案資料

九十九里小学校

- 1, 目的
  - ・東海地震（巨大地震）に向けての防災教育や防災対策に努める。
  - ・地域（家庭）の防災意識を高めるために学校（児童）の防災教育から取り組む。
  - ・学校が避難所になった際のマニュアルを作成する。
- 2, 内容
  - ①地域の特性を知る ・防災施設や設備の確認・地形と災害
  - ②災害に備える ・心の備え（支え合い）・避難の仕方・地区の避難所
  - ③防災の知識を学ぶ ・自分の命を守る方法・災害についての正しい知識  
・地域や家庭との連携
- 3, 方法
  - ・学年で取り組むことを確認する・学年ごとのワークシートを作成する
  - ・参考になる資料の用意と記録をとる
- 4, 組織
  - ・学習資料班（簡単で効果的なワークシートづくり）・各学年での防災との関わり
  - ・防災訓練班（地震、津波、火災等防災訓練）・引き渡し表、津波対策、避難訓練
  - ・施設対策班（避難所マニュアル）・避難所としての施設の活用と児童の掌握等
- 5, 実施内容
  - 1年・2年 災害の種類を知り、身の守り方・避難の決まりを身につける。
  - 3年・4年 家や通学路・休日時の災害に備える。・津波に警戒する。  
学区の様子や地域の防災施設を調べる。
  - 5年・6年 地震・津波のメカニズムを調べる。九十九里の災害の歴史を調べる。  
ぼくやわたしにできること（避難所生活）

### 6, 実施計画（2～3学期の予定）

時 期	計 画 事 項	摘 要・対象者
9月	町の特徴・地形（津波に備えて） 総合避難訓練（地震・津波）・津波の恐ろしさ9/6 校時	5年 全校児童
10月	学校をきれいにしよう（安全点検） 「ゆめ・仕事びったり体験」23日 職場体験・職場の防災 ぼく、私にできること わたしたちにもできる救急法30日	全校児童 6年  5・6年
11月	携帯電話安全教室（NTT）6日 災害伝言ダイヤル ボランティア（道徳）13日2校時・1組 15日2校時・2組 九小祭 職場体験・総合学習・生活科発表17日 教育講演「家庭・地域の防災」 放送局の働き「災害情報・伝達」（社会）30日	5・6年  4年  全校児童 保護者・児童 5年
12月	地震に備えよう（地震体験車） 非常食・非常グッズ	全校児童 保護者
1月	避難訓練（地震・火災）10日 生命の尊重（道徳） 消防署の見学（社会）下旬 消火・避難訓練	全校児童 3年 3年 全校児童
2月	高齢者体験 1日 地区避難場所の確認 警察署の仕事（社会）初旬 宿泊地域での避難（思い出旅行）21・22日	6年 地区 3年 6年
3月	災害にあったら 上旬 防災対応マニュアル作成	3年 学校・保護者・役場

## 地震防災に関するフォーラム分科会資料

館山市立富崎小学校

### 1 地域の特徴

本地域は房総半島の最西南端に位置し、過去には明治時代と大正時代に2回の大  
火災の経験から、地域の防災意識は極めて高くまた、元禄大地震における津波被害の  
教訓から関東大地震における津波では、僅かの被害者であった事は、本地域の防災に  
対する伝承が生きていた証拠である。

### 2 実施経過

4月



学区の危険な場所調べ



安全な登下校

7月



5月



避難訓練（火災）



避難場所確認



着衣水泳訓練

元禄大地震大津波到達地点見学  
磯遊びの注意  
学区の危険な場所



元禄大地震大津波供養碑見学



地区探検

9月



6月



避難訓練（不審者対応）心肺蘇生法訓練



避難訓練



消防署の見学

### 3 今後の主な予定

- 1月18日 「元禄大地震・関東大地震と富崎」及び「中越地震体験」の講演会  
・講師 NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム  
元安房博物館長 富崎区長 中越地震体験者  
・参加者 児童、職員、保護者、地区の住民
- 12月 3日 消火訓練 参加者 児童、職員、保護者、地区の住民
- 1月24日 非常食試食体験 参加者 児童、職員、保護者、地区の住民
- 2月22日 起震車体験 参加者 児童、職員、保護者、地区の住民

# 文 部 科 学 省 資 料

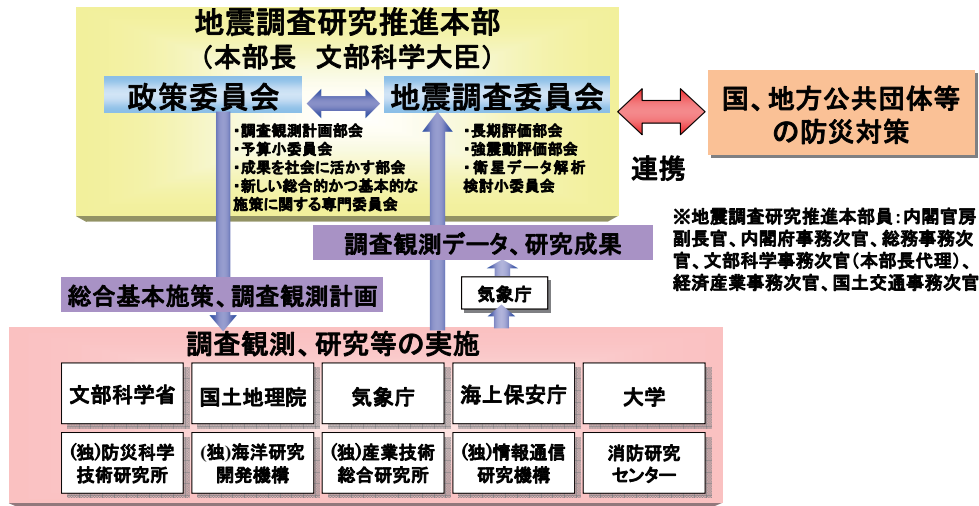




# 地震調査研究推進本部 推本(すいほん)

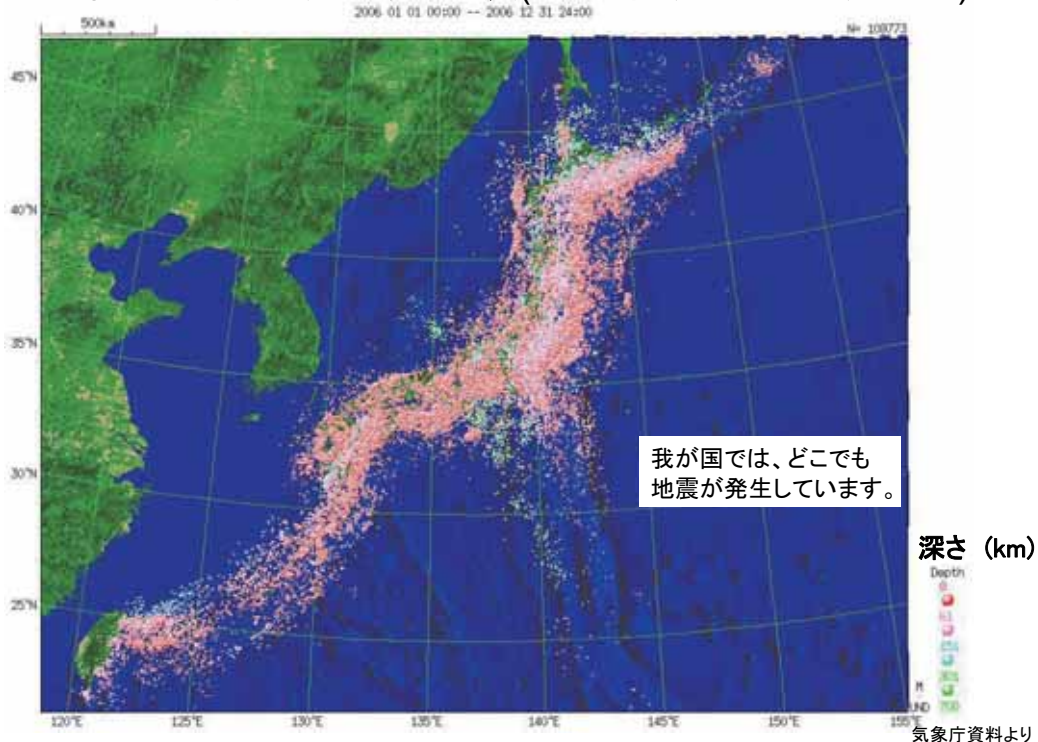
地震調査研究推進本部は、調査研究を一元的に推進する政府の特別の機関です。

- **地震防災対策特別措置法の制定(平成7年7月)**
  - ・平成7年の阪神・淡路大震災を教訓に、全国にわたる総合的な地震防災対策を推進するため、地震防災対策特別措置法が議員立法によって制定。
  - ・地震に関する調査研究の成果が国民や防災を担当する機関に十分に伝達される体制になっていなかったことを教訓に、行政施策に直結すべき地震に関する調査研究の責任体制を明らかにし、これを政府として一元的に推進するため、政府の特別の機関として「地震調査研究推進本部」を設置。



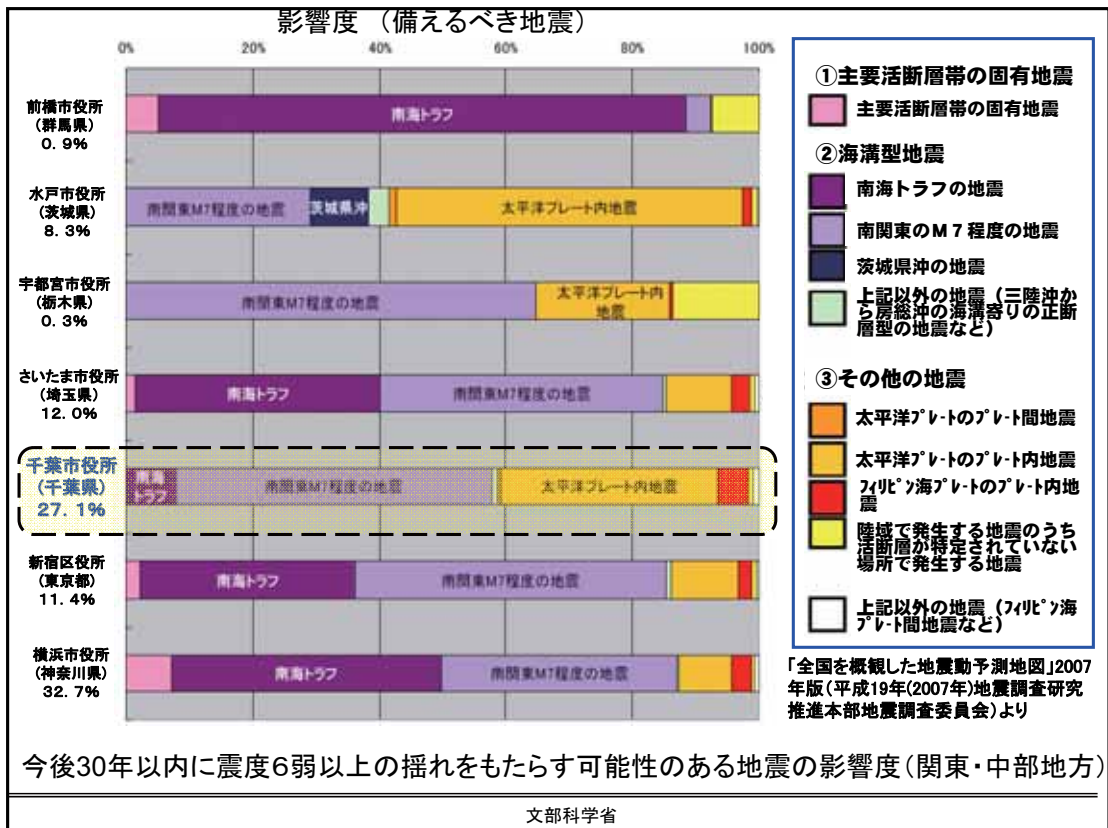
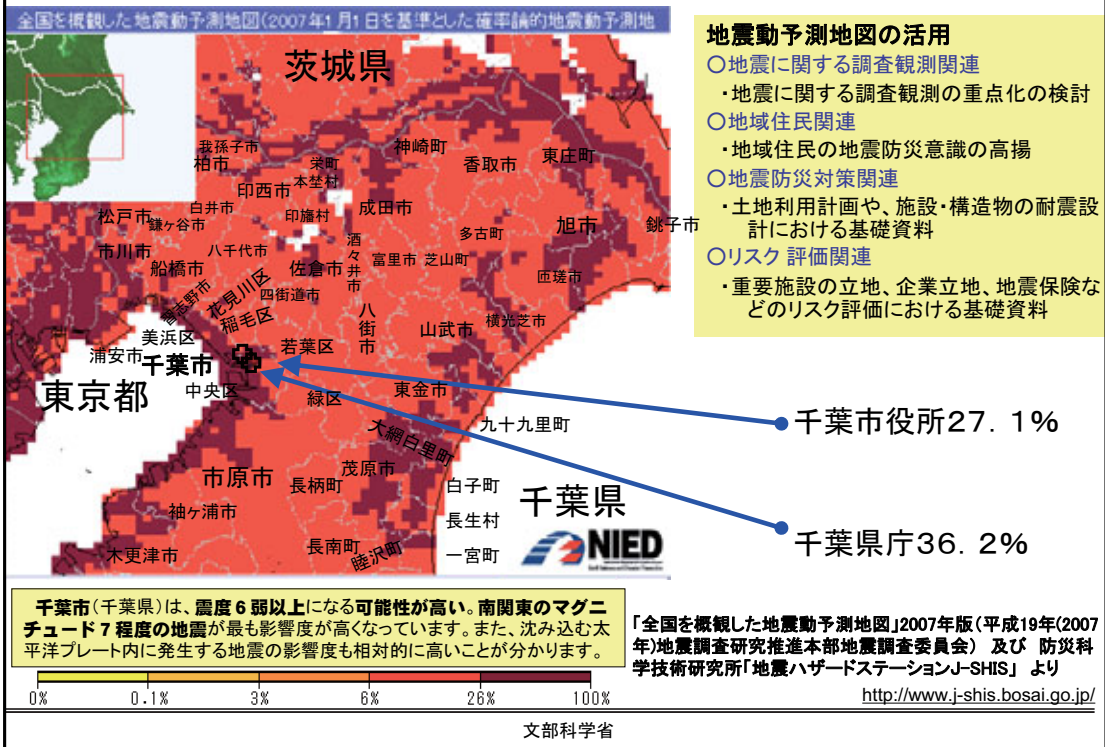
文部科学省

## 我が国で一年間に発生する地震(2006年1月1日～12月31日)



文部科学省

# 30年以内に震度6弱以上に見舞われる確率



# 防災教育支援に関する懇談会 中間とりまとめ（概要）

本懇談会では、防災教育支援について、平成19年4月より検討を重ね、中間的なとりまとめを行ったところ  
 ※ 防災教育支援：防災科学技術の研究成果を活用しつつ、学校や地域等で行われている防災教育の取組を支援し、社会全体の防災力を高めるための方策

## 背景

- 我が国は自然災害が多発(新潟県中越沖地震(H19.7)、能登半島地震(H19.3)など)
- 安全で安心な社会を実現することは、国の基本的かつ重要な責務

### 防災教育の目的

「生きる力」を涵養し、  
能動的に防災に取り組む人材の育成

### 防災教育支援の基本的考え方

- ① 防災教育で目指す能力(「生きる力」)を育む
- ② 防災への自発的・能動的な取組を促す
- ③ 「災害文化」を再評価・発展・浸透させる

## 課題

携わる人についての課題	内容についての課題	方法についての課題
・「担い手」「つなぎ手」の不足 ・教職員等への研修が十分でない	・発達段階を踏まえた学習内容等の整理が必要 ・素材やコンテンツの共有が不十分	・自ら課題を発見し、調べるなど能動的学習が必要

## 現状

全国規模での取組	地域社会での取組	学校での取組
・文科省「防災研究成果普及事業」 「地震防災フォーラム」等の実施	・教育委員会による副読本の作成・活用 ・学校と地域住民の連携による取組の実践	・総合的な学習の時間」等において、地域等の特徴を活かした取組を実施 ・地域・通学路等の防災マップづくりの実施

全国・地域社会・学校において取組が行われているが十分ではない

## 戦略

「担い手」「つなぎ手」の育成	学びの素材・場の提供	「内発的動機付け」「気付き」を促す
----------------	------------	-------------------

防災教育支援モデル地域事業	防災教育支援窓口	防災教育支援地域フォーラム
---------------	----------	---------------

## 施策

大学等を中心として、地方公共団体、学校などが連携・協力し防災教育の取組を行う地域(10地域)をモデル地域として選定・支援を行う。	全国の防災教育の事例を一元的に集約し、使いやすいように改良した上で、自由に活用できる素材・コンテンツ等として発信・提供する	「担い手」「つなぎ手」との接点・交流の場づくり、防災教育の優れた取組・最新の研究成果の紹介により、学校・地域等の取組を促す
--	---	---

# 防災教育支援のための防災科学技術の活用事例

～その① 科学技術で何が出来る？  
(例:シミュレーション)～

**原因が分かる**  
未知の不安を解消できる  
自分で納得して行動できる

**見えないものが見える**  
地震・津波の発生の様子  
～将来の予測や対応に応用～

**未来を予測できる**  
将来を知ることが出来る  
被害による影響が分かる  
自然への影響、自らの居み分かる

資料提供: 今村文彦教授  
(東北大学大学院工学研究科)

～その② 私の周りはどうなる？  
(例:CGや緊急地震速報の活用)～

**被害の大きさをイメージ**  
地震が起きたらどのくらいの被害になる？  
自分の住んでいるところは安全か？

**災害時の学校をイメージ**  
学校で地震に遭ったら？  
いざというときに避難しないためには？  
自分の命を守るには？

**災害時の街をイメージ**  
通学路で危険なところは？  
どこに避難すればいい？  
防災について家族で話し合いたい！

資料提供: 源栄正人教授  
(東北大学大学院工学研究科)  
【文部科学省:防災研究成果普及事業】

～その③ 防災活動の実践へ  
(例:建物の耐震化)～

**①危険に気づく**  
私の地域の震度は？  
知震被害は？  
私の家の耐震性は？  
私の家は揺れでこつめる家具は大丈夫？

**②地盤や建物を学ぶ**  
耐震診断、耐震補強の方法は？  
家具の固定はどうすればいい？  
避難してどこにどうに揺れる？  
身のまわりの防災の知識は？

**③防災活動を実践する**  
地域でワークショップを開催したい！  
防災まち歩きをやりたい！

資料提供: 福和伸夫教授  
(名古屋大学大学院環境学大学院研究科)  
【文部科学省:防災研究成果普及事業】

## 最近の最大震度6弱以上を観測した地震

発生年月日（曜日）	時刻	地震名		死者（負傷者） <sup>【注3】</sup>
1946年12月21日（土）	04:19	北海道地震	M:8.0	1,330名
1948年06月28日（月）	17:13	福井地震	M:7.1	3,769
1964年06月16日（火）	13:01	新潟地震	M:7.5	26
1968年05月16日（木）	09:48	十勝沖地震	M:7.9	49
1978年01月14日（土）	12:24	伊豆大島近海の地震	M:7.0	25
1978年06月12日（月）	17:14	宮城県沖地震	M:7.4	27
1983年05月26日（木）	11:59	日本海中部地震	M:7.7	104 <sup>【注2】</sup>
1993年07月12日（月）	22:17	北海道南西沖地震	M:7.8	202
1995年01月17日（火）	05:46	兵庫県南部地震	M:7.3	6,434
1997年05月13日（火）	14:38	鹿児島県薩摩地方地震	M:6.4	0（74）
1998年09月03日（木）	16:58	岩手県内陸北部地震	M:6.2	0（9）
2000年10月06日（金）	13:30	鳥取県西部地震	M:7.3	0（182）
2001年03月24日（土）	05:41	芸予地震	M:6.7	2（288）
2003年05月26日（月）	18:24	宮城県沖地震	M:7.1	0（174）
2003年07月26日（土）	00:13	宮城県北部地震	M:6.4	0（677）
2003年09月26日（金）	04:50	十勝沖地震	M:8.0	2（849）
2004年10月23日（土）	17:56	新潟県中越地震	M:6.8	67（4,805）
2005年03月20日（日）	10:53	福岡県西方沖地震	M:7.0	1（1,087）
2005年08月16日（火）	11:46	宮城県沖地震	M:7.2	0（100）
2007年03月25日（日）	09:42	能登半島地震	M:6.9	1（336）

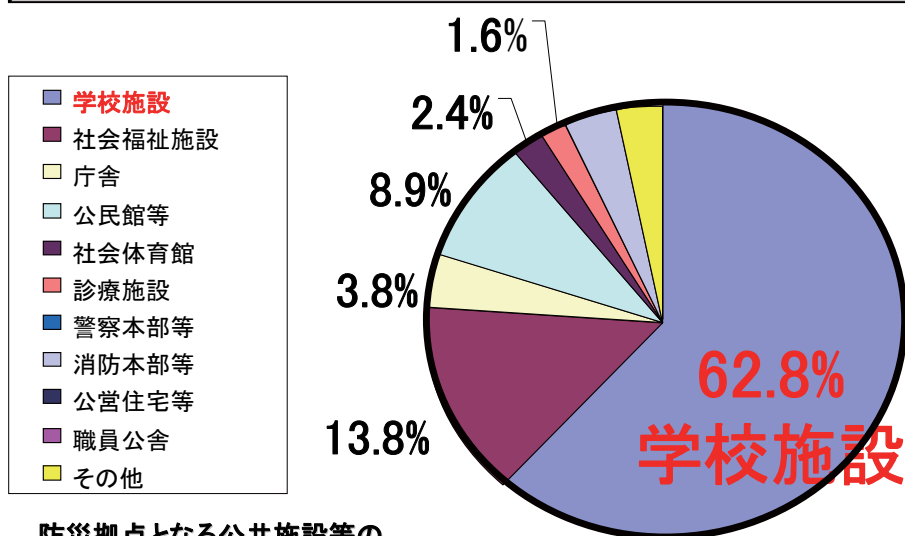
【注1】 青字は授業時間外

【注2】 内、津波による死者100人（遠足中の合川南小児童 49名中13名が犠牲）

【注3】 1995年以前の地震については負傷者数を省略

文部科学省

## 防災拠点に指定されている公共施設の 約6割が学校施設



防災拠点となる公共施設等の  
耐震化推進状況調査報告書

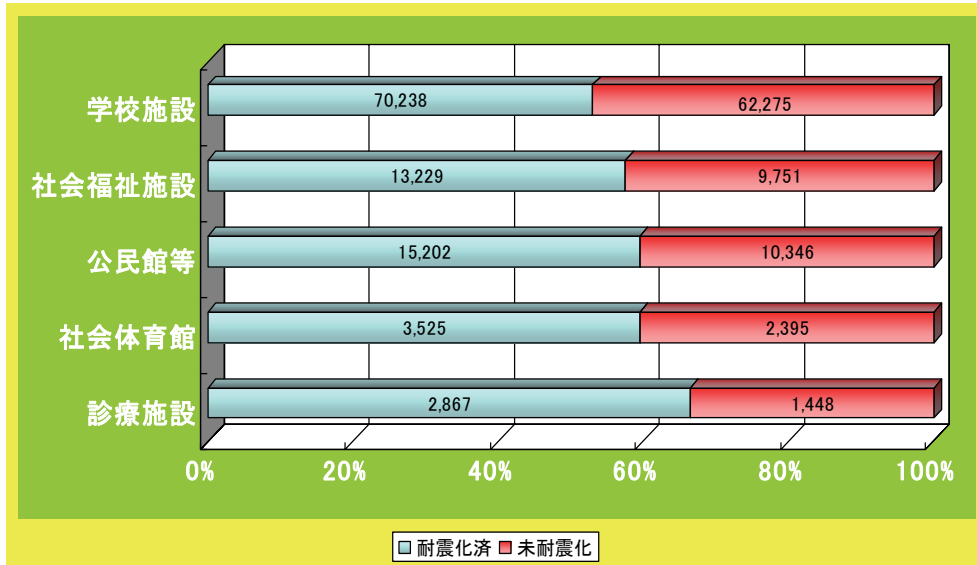
文部科学省

平成17年4月1日現在

# 他の公共施設に比べ耐震化が遅れている学校施設

公共施設等の耐震改修進捗状況

【市町村分】(抜粋)



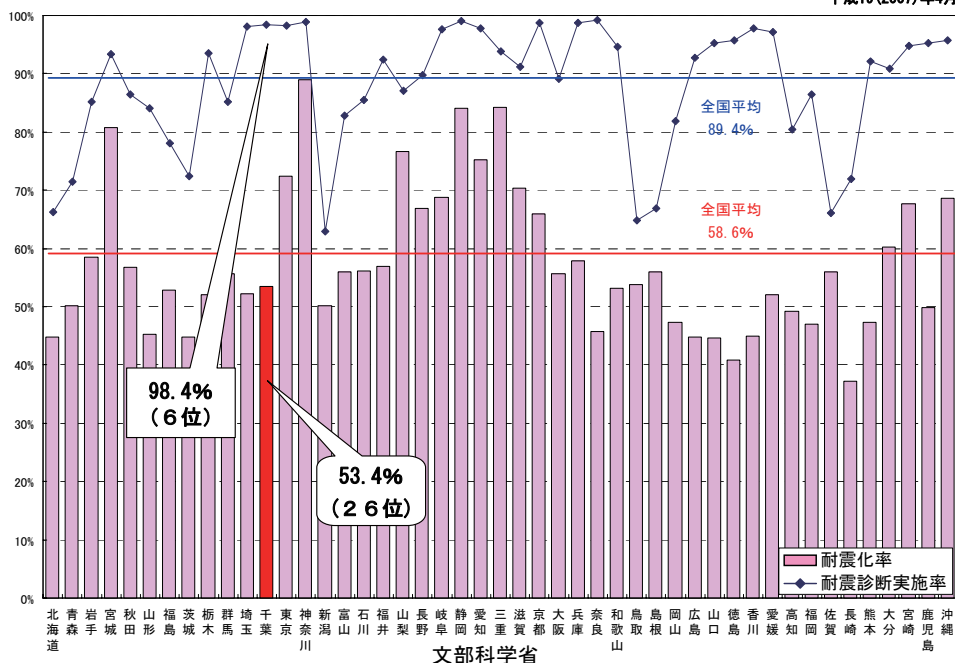
防災拠点となる公共施設等の耐震化推進状況調査報告書より

文部科学省

平成17年4月1日現在

# 公立学校施設の耐震改修状況(小中学校)

平成19(2007)年4月1日現在



文部科学省



MEMO

---



MEMO

---